

平成 30 年 11 月 12 日

めばえの会会員のみなさま

世田谷区立千歳台小学校
めばえの会会長 阿部 洋
文化厚生委員長 植田 真弓

家庭教育学級

第 2 回めばえセミナー 実施報告書

10 月 26 日(金)、千歳台小学校多目的室において、平成 30 年度第 2 回めばえセミナーを開催いたしました。

今回のセミナーでは、マネラボキッズ代表 盛美穂先生をお迎えし、『お金を通して育む親子のコミュニケーション』をテーマに、お金の価値やありがたみをどう子どもたちに伝えていくか、お金の使い方に困ったときに子どもに寄り添える親子関係の築き方についてお話いただきました。

以下、セミナー内容を簡単にまとめましたので、出席されなかった方もぜひ、ご一読ください。

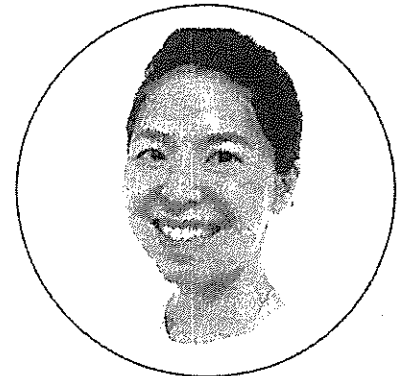
セミナー概要

テ ー マ： 「お金を通して育む親子のコミュニケーション」

講 師： マネラボキッズ代表 盛 美穂先生

日 時： 10月26日（金）10:00～12:00

参加人数： 32 名



セミナー内容

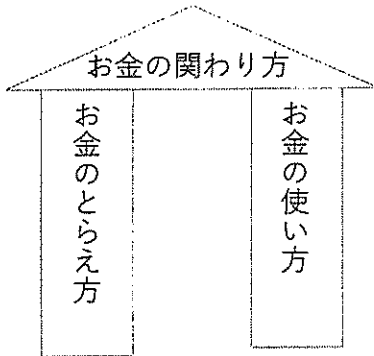
家庭でお金の実体験を

親子のコミュニケーションとは、親も子も、自分の考えや気持ちを伝え合い、お互いに受け止め合うことです。日常では、つい親から一方的になりがちですが、双方向型のキャッチボールができることが理想です。コミュニケーションの観点からすれば、子どもにとってのよい家庭の特徴として「安全安心な場所」「失敗しても OK だと思える場所」が挙げられます。

そのような家庭を築くには、信頼関係を築くこと、困ったことがあったときに素直に「助けて」といえる雰囲気作りが大切です。そうすれば、お金の使い方やルールなど枠組みを示してあげることができ、家庭がお金の実体験のできる場所になることができます。このように、家庭のよさを引き出すことは、親の役目でもあるのです。

お金は、感謝のしるし

まずは、お金の関わり方について、図のように2つの軸で考えていきます。お金の関わり方については、ポジティブにとらえることが大切です。



✓お金のとらえ方 : 幸せや喜びを支えてくれるもの!

✓お金の使い方 : 使うときは気持ちよく使う! 貯めることも大切!

お金は、ものやサービスに対しての対価です。言い換えるならば、お金の本質は「感謝のしるし」なのです。

近年、お金や社会構造の変化が著しいです。電子マネーなどの見えないお金が増加し、お金の重みを感じにくくなっています。また、2022年から18歳=成人と、成人年齢が引き下げられ、親の同意なく本人だけでクレジットカードなどの契約ができるようになります。そのため、金銭トラブルの低年齢化が危惧されています。そのようなことを回避するためにも、まずはお金の本質を知りましょう。

家庭で出来る親子のお金の関わり方

家庭で出来る親子のお金の関わり方として、実践方法を3つ、ご紹介します。

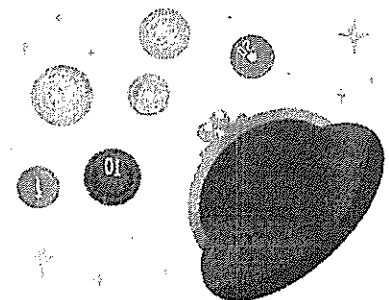
実践1 家族でお金について語り合おう!

お金への意識は、親の影響が大きく作用します。普段からお金のことを話し合う、我が家のお金のルールを共有することが大切です。例えば、TVを見ているときに「あなたは思う?」「パパやママはこう思う」などサラッと伝えることも、お金のことを話し合うきっかけとして効果的です。子どもは、親は自由にお金を使えてずるいと思っている傾向があります。限りあるお金を節約しながら使っていること、たまにはみんなが幸せになれるものに使おうなど、親の考えを伝えてあげるといいでしょう。また、スーパーで買ったチョコレートが自分の手もとに届くまでに、どのような人々の手を渡って、どのような過程で経費がかかるなど流通経路の説明をしてあげてください。お金の流れを、低学年のうちから教えてあげることも大切です。加えて、お金以外の大切なことも忘れずに教えてあげてください。

実践2 子どもに実体験を積みませよう!

「まかせろ」とは、魔法の言葉です。「あなたにまかせたい」と言われると自分の成長を認められたように感じ、さらに頑張ろうとします。まずは、現金をおこづかいとして子どもにまかせてみましょう。自立のための練習として、金額設定とルールは親子で決めます。決める際の選択肢は、親が出してもいいでしょう。金額設定は、子どもの行動範囲が広くなるにつれて増やしていきます。おこづかいの使い道としては、下の2点を意識します。

- ✓ 学校で使用する文具など必要なもの
- ✓ おやつなど自分の欲しいもの



そうすると、欲しいものだけ買うわけにいかず、お金の管理が必要となってきます。子どもにお金の管理をさせて、価値やモノを大事にする力を養わせていきます。また、定期的な振り返りも行います。使い方で、良かったモノ、失敗したモノを子どもに考えさせて次に生かしていきましょう。その際に使ったモノについて、口出ししないようにします。おこづかいの使い方は、子どもの様子を見ながら徐々にステップアップしていきます。



日常の中で、これはニーズなのか？これはウォンツなのか？を子どもと一緒に考えてみるとよいでしょう。おこづかいをもらったら、まずは「使う」「貯める」「誰かのため」の3つに分けるように促していきましょう。次は、学年による、おこづかいを使うにあたってのポイントです。

低学年～おこづかいを始める前～

お買いもの経験やマナーを教えます。まず最初は、お金をお財布から出し入れするところから始めましょう。マナーとはお金を丁寧に扱うことなどです。レジでお金を投げるなどしてはいけません。また、お祭りなどで、予算内で自分が選んで買い物をする経験を積ませます。自分で購入するという事は、責任をもつことにつながります。納得して購入する取捨選択ができるようにします。

高学年

旅行やパーティーなど家族イベントなどを、目的・予算決めから行動計画までプランニングさせてみましょう。家族の前でプレゼンさせたり、しおりを作成したりするといいでしょ。幸せなお金の使い方、家族を喜ばせることを、実体験をもとに学ばせます。

また、子ども同士のお金のトラブルが起きたり、高額なものを欲しがったりしたら、子どもの話をよく聞き、気持ちを理解してあげてください。そして親の気持ちを伝えて、子どもの意見も聞いてあげます。それから、今後どうしたらいいか具体策を親子で考えてください。

実践3 将来のことを考えよう！

親自身の仕事の話をしなが、誰にどのように喜ばせているかを子どもに伝えましょう。子どもの好きなこと、夢中になっていることに意識を向け、親子で夢の話をし、応援し合ひましょう。親の夢を聞いて、子どもは勇気づけられ、今の自分が将来の自分につながっていくことがわかるようになります。親子で、将来の夢についていつも話をしている家庭の子どもは、計画的にお金を使うという統計も出ています。



自立と幸せ育成にむけて

お金と向き合うことは、「自分はどう生きるのか？」を考えることです。それが生きる力を育むことにつながっていきます。また、「自分はどうしたいのか？」と自分の軸をしっかり持つことが大切です。

子どもの自立と幸せのために、親子で楽しくお金と向き合っていきましょう。
長期的な視野で取り組むことが大切です。

グループワークテーマ

下のようなテーマでグループワークを実施し、実際にお金を通した子どもとのコミュニケーションについて話し合うとともに、先生のお話により多くの気づきを与えていただきました。

お子さんにどんな大人になってほしいですか？そのために、お子さんにとって必要な力とは？

自立して自分らしく人生を切り拓いていける人。主体性・判断力・発想力・決断力・計画性・素直さ・チャレンジ力・自尊心・楽しむ力・問題解決力などが必要。

お金を使う時に大事にしていることは？子どもに伝えたいお金の価値観は？

お金を使う前に、購入するものが本当に必要か、みんなが笑顔になるかを考える。
お金は、働いたことに対する対価であること、世の中のお金のしくみを伝える。

家庭で実践してみたいことは？

お金があるけれど、今ここで購入しない理由を説明した方が子どもは納得できる。
旅行の計画などを子どもにさせてみたい。

アンケートより

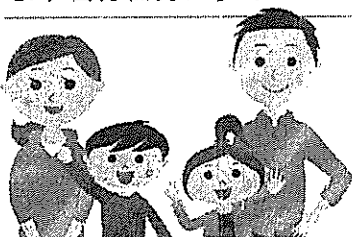
お金の話は比較的タブー視されてきたと思います。生きていく上で欠かせないお金について、実践・経験を積ませ、価値観を共有して行くことはとても大切だなと思いました。

子どもにお金の話ばかりしており、自分を悪い親なのでは？と思っていたので、そうとも言えないのだとわかりました。

是非、学年別に子どもたちにも直接指導していただきたいです。「お金を使う楽しみ」というフレーズが心に残りました。

おこづかいを導入して、必要なものと欲しいもの両方を自分で考えさせ、実践していきたいと思います。旅行のプランを考えさせることは是非やってみたいと思います。

まず自分自身が夢やニーズとウォンツについて考えたいと思います。



以上
千歳台小学校文化厚生委員会